「新しい時代の幕あけ」(9時間扱い)

授業者 鎌田 尚吾

1. 社会科の目標・第6学年における目標・本単元の目標・育成を目指す資質・能力を踏まえた単元の評価規準

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

小学校社会科における社会的事象等の見方や考え方

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を見出し、事象を比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

社会科の目標では、(何を知っているか、何ができるか) 地域や我が国の国土の地理的環境,現代社会の仕組みや働き,地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめ

個別の知識や技能

思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりする力を養う。

学びに向かう力、人間性等など (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

社会的事象について、よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

第六学年の目標

我が国の政治の考え方と仕組み や働き、国家及び社会の発展に大 きな働きをした先人の業績や優れ た文化遺産、我が国と関係の深い 国の生活やグローバル化する国際 社会における我が国の役割につい て理解するとともに、地図帳や地 球儀、統計や年表などの各種の基 礎的資料を通して、情報を適切に 調べまとめる技能を見に付けるよ うにする。

る技能を身に付けるようにする。

社会的事象の特色や相互の関連,意味を多角的に考える力,社会に見られる課題を把握して,その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力,考えたことや選択・判断したことを説明したり,それらを基に議論したりする力を養う。

社会的事象について,主体的に学習の問題を解決しようとする態度や,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに,多角的な思考や理解を通して,我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情,我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

武士の時代が終わる経緯や明治政府が目指した国づくりとそれによる社会の変化について調べ,日本が西洋の様々な文化を取り入れながら、近代的な国家を目指して様々な改革を進めたことを理解することができるようにする。

本単元の[

開国にいたる経緯,外国と結んだ 不平等条約の影響と明治政府が推 し進めた諸改革との関連,大日本帝 国憲法が制定され国会が開設され た経緯をつかみ,人々が求めた政治 のあり方や政府が目指した国づく りについて理解する。

開国による影響や明治政府が行った諸改革による社会の変化などについて,資料を活用して調べ,まとめることができる。

評価1

黒船来航や開国による影響,近代化を目指して明治政府が行った諸改革と社会のしくみや人々の暮らしの変化のかかわりについて多角的に考え,考えたことを説明したり、それらを基に議論したりことができる。

開国にいたる経緯や影響について意欲的 に調べたり、考えたりしている。

まちの様子や人々の暮らしの変化につい て調べたり考えたりしながら、明治時代に おきた変化と今の社会とのつながりについ て関心をもつ。

新しい政治を求める動きがなぜ起こり, どのように進められていくのか関心をも ち, 意欲的に調べたり, 考えたりしてい る。

評価 2

評価3

≪単元について≫

本単元では、具体的な人物の働きを取り上げながら、開国にいたる経緯やそれらが及ぼした影響、明 治政府が西洋の文化を取り入れ、近代的な国家を目指して政治や社会の新たなしくみづくりを進めたこ とを理解できるようにする。

2. 研究との関わり

うにする。

(1) 資質・能力の育成を支える「学びの文脈」~「思考力・判断力・表現力等」を中心として

生活科 <mark>_ 函館☆カコ→ミライ</mark>

総合的な学習の時間(思考力・判断力・表現力)

実社会や実生活の中で問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

資質・能力のつながり

国語科(第5·6学年思考力・判断力・表現力)

身近な人々, 社会及び自然を自分

との関わりで捉え, 自分自身や自分

の生活について考え,表現できるよ

筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い,日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め,自分の思いや考えを広げることができるようにする。

社会科 (第6学年思考力・判断力・表現力)

社会的事象の特色や相互の関連,意味を多角的に考える力,社会に見られる課題を把握して,その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力,考えたことや選択・判断したことを説明したり,それらを基に議論したりする力を養う。

社会科において育成を目指す「思考力・判断力・表現力等」

- ・ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力
- ・ 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力
- ・ 考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

本単元における「資質・能力」を身に付けた子供の姿(例)

- ・ 武士の時代が終わった経緯や西洋の文化を取り入れながら明治政府が行った取組を理解している。
- ・ 当時の写真や絵などの各種資料から情報を収集したり、まとめたりする。
- ・ 世の中の様子や人物の働きに着目して、調べたことから自分の考えをもち、説明したり、議論したりする。
- 過去の日本と今の日本の違いやつながりについて考えている。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」を保障する手立て

○ 手立て1 課題解決の価値や期待を高める単元テーマの設定

子供が課題を解決していく必要感や必然性を感じながら、課題を追究していくことができるよう、具体的人物の思いや願いに迫る単元テーマを設定する。

これにより、単元を通した課題解決への見通しや期待をもちながら主体的に学びを進めることができると考える。

また、振り返りを単元テーマに対する考えを書く時間とすることで、子供が毎時間の学びの集積や単元を通した学習の成果・価値を実感し、より主体的に学んでいくことができるようにする。

○ 手立て2 調査を基にした気付きや考えの交流

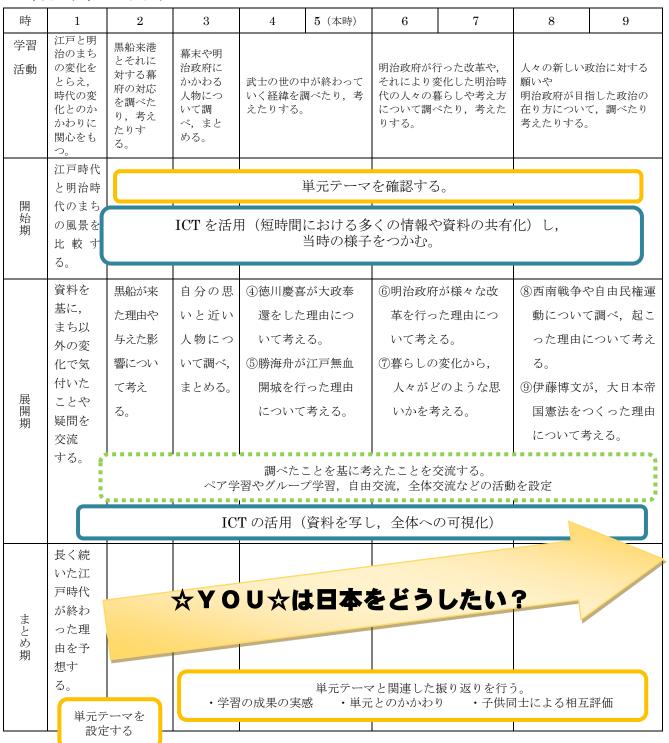
具体的人物を取り上げ、社会的事象の意味を考えたり、子供自身が選択・判断したりすることができる学習問題を設定する。このことにより調べたことだけでなく、調べたことを基に気付いたことや考えたことを交流し、共有、比較、関連付けを行うことができるようにする。また、必要に応じて交流場面における学習形態を変化し、多様な考えに触れられるようにする。

○ 手立て3 情報の整理や共有化のための ICT の活用

授業の開始期における本時の学習問題を設定する場面では、教師が作成したスライド資料を基に、前時の学習を想起したり当時の様子をつかんだりしながら、「問い」をもつことができるようにする。効果的な資料提示をすることで、多くの情報や資料の整理や共有化を短時間で行うことができると考える。

また,交流場面において子供たちが資料を写す場面で使用し,調査情報の共有化や根拠の視覚 化を図る。

3. 単元のグランドデザイン



4. 本時案

江戸無血開城を決断した勝海舟の思いを考えることを通し、武士の世の中が終わっていく経緯や勝 海舟が目指した日本をとらえることができるようにする。

学習活動(〇)と子供の姿

教師の支援(☆)と評価(◇)

- ○前時までの学習を振り返り、単元テーマを確認する。
 - 打ちこわしや百姓一揆、大塩平八郎の乱など、江戸幕 府への不満が広がった。
 - 徳川慶喜は大政奉還を行い、政権を天皇に返した。
 - 幕府がたおれても、戦いが続いた。(戊辰戦争)

★YOU★は日本をどうしたい!?

○ 学習問題を設定する。

勝海舟西郷隆盛は敵同士だよね。



何を話しているの?

勝海舟は江戸城を明け渡すことにしたんだ。

何で自分たちの城をあげるの? 西郷隆盛と勝海舟

どうして幕府側の勝海舟は江戸城を明け渡したの?

○ 自力追究をし、必要に応じて交流する。

江戸を戦場に したくない。 人々への被害

武士と新政府 が協力。

外国の侵略

徳川 守りたい。 武士を守

る。

徳川の命を

をなくす。

争いをやめ、戦争を終わらせたい。

を防ぐ。

○ 新たな視点から、思ったことを交流する。

もし江戸で戦っていたら…?

今の東京とは変わっているかも。

戊辰戦争はまだ続くんだね。

さらに被害は増えていくね。

函館でも戦いがあったんだ。

早く平和な世の中になってほしい。

○ 本時の学習を振り返る。

江戸無血開城により, 江戸が戦場となることはなかっ た。勝海舟は、日本が一つになることを望み、決断したん だね。

- ☆ スムーズに振り返ることが できるよう、ICTや年表を活用す 【手立て3】 る。
- ☆ 単元テーマを確認する。 【手立て1・3】
- ☆ 勝海舟と西郷隆盛の話し合 いの様子や内容について想像 することができるよう, ICT を 【手立て3】 活用する。
- ☆ 主体的に学習に取り組むこ とができるよう、子供の言葉を 拾いながら,本時の学習問題を 【手立て 2】 設定する。
- ◇ 江戸城無血開城を行った勝 海舟の思いを多角的に考える 評価 2 ことができる。
- ☆ 多くの考えに触れ、学びを深 めることができるよう、資料を 映して共有化したり、学習形態 を変えたり、問い返しをしたり する。 【手立て 2・3】
- ☆ 戊辰戦争の継続や広がり、被 害をとらえるために,ICT を活 用する<u>。</u> 【手立て3】
- ◇ 本時の学びを振り返りなが ら, 勝海舟が目指した日本につ いて考えている。 評価3
- ☆ 当時の様子や人物の思いに近 付くことができるよう, 勝海舟が 目指した日本やそれに対する自 分の考えについて書くよう促す。 【手立て 1】